

海岸利用の活性化に向けたナレッジ集

Ver2.1

活用ガイド

ナレッジ集 Ver2.1 目次

はじめに

1. 海岸利用について

- 1.1 海岸利用における地域関係者の関わり方
- 1.2 海岸利用者の悩み事や困り事
- 1.3 本ナレッジ集の使い方

2. 海岸利用者への支援のヒント

- 2.1 企画発案の段階
- 2.2 計画・実践の段階
- 2.3 振り返りの段階

3. 海岸利用の仕組みと手続き

- 3.1 海岸利用にあたって知っておきたい法律(海岸法)
- 3.2 海岸利用に必要な手続きの概要
- 3.3 海岸協力団体制度

海岸の利活用促進に向けた支援を行う際の背景情報を紹介

利用者の支援の段階に応じた支援内容のヒントや参考事例を掲載

海岸法の手続きや利活用の際に役立つ制度等について紹介

国土交通省 水管理・国土保全局 海岸室

(ナレッジ集のダウンロードはこちらから)

<https://www.mlit.go.jp/river/kaigan/>



はじめに

『海岸利用の活性化に向けたナレッジ集』は、地域の貴重な資源である海岸の利活用の機運を更に高めていくことを目的に、海岸管理者や海岸を有する地方公共団体の職員が、民間事業者等をはじめとする海岸利用者へ支援を行う際のヒントをとりまとめたものです。

全国の海岸管理者の皆様がこのナレッジ集をご活用いただき、海岸とまちが融合した良好で賑わいのある水辺空間の創出、さらには地域の防災力の向上にも寄与することを願っております。



地方の海水浴場



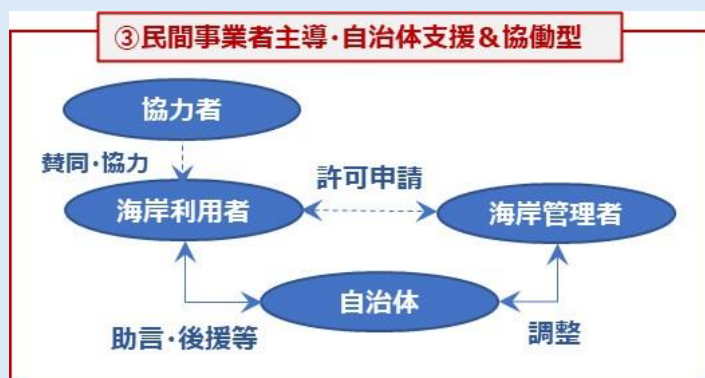
都市近郊の海浜公園

1. 海岸利用について

「1.海岸利用について」では、海岸の利活用促進に向けた支援を行う際の背景情報として、海岸利用における**多様な関係者の関わり方**、海岸利用に際しての**民間事業者等の悩み事や困り事**、また本ナレッジ集の使い方について紹介しています。

多様な関係者の関わり方

比較的多く見られる関わり方として以下のパターンがあります。民間事業者が主体的に活動し、地元自治体が思いや企画に賛同して一緒に協働する、またはその活動を後方支援するタイプです。海岸利用の企画段階や海岸管理者の許可取得に際し、地元自治体が仲介役として重要な役割を果たしています。



【パターン例】 民間事業者等を自治体や協力者が支援して海岸を利用するケース

民間事業者等の悩み事や困り事

海岸利用者は以下のような悩みや困り事を抱えていることを念頭に、段階ごとの助言や支援を行うことが効果的です。

① 人材面：

地域の海岸に対する関心が薄い、利活用の企画・行動力が不足している

② 活動資金面：

イベントや環境維持活動の財源不足、資金調達方法が分からない

③ 仕組み・制度面：

占用ルールが分からない、民間事業者が海岸利用に参画しにくい、海岸積極利用の機運が乏しい、利活用の施設整備が不十分

④ その他：

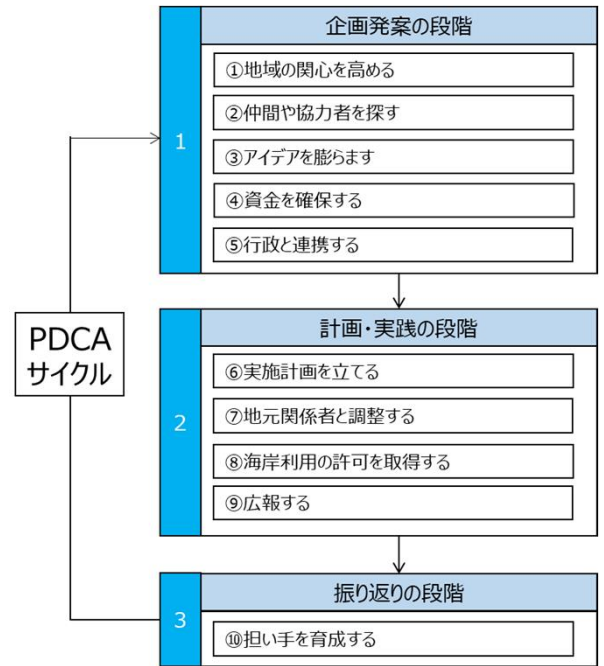
広報手段の不足、背後地との連携不足、海岸利用マナーが未成熟

2. 海岸利用者への支援のヒント

民間事業者等による海岸利用の流れとしては、以下の3つの段階があります。

1. 海岸を利用しようと企画発案する段階（企画発案）
2. その企画の実現に向けて計画し実行する段階（計画・実践）
3. さらに実施後に今後の更なる利活用の発展に向けて結果を振り返る段階（振り返り）

各段階における支援内容を示すとともに、いくつかの参考事例を紹介しています。



民間事業者等による海岸利用の流れ（3段階）

3. 海岸利用の仕組みと手続き

海岸利用者が海岸にてイベント等を開催する場合に、手続等について、十分に周知されていないため、海岸の活発な利活用における一つの障壁となっている現状があります。

この障壁を少しでも低減できるよう、海岸利用に際して知っておくと便利な知識として、海岸法に基づく手続きや、利活用に際し役立つ制度等について紹介しています。

海岸利用の占有許可手続の流れ

1. 事前相談

海岸の利用の企画の検討を始めた段階で、企画内容について管轄の土木事務所等に相談（以下の項目に未定な部分があっても構わない）

- ・ 場所（どの海岸のどの近辺か、概ねの範囲）
- ・ 行為内容（どのようなことを行いたいのか）
- ・ 誰が行うのか（実施者、参加者や人数イメージ）
- ・ いつ頃行うのか（具体の日付でなくとも概ねの時期）

2. 事前相談（協議）

海岸の利用の具体計画が概ね出来た段階で、企画内容について管轄の土木事務所等に相談（以下の項目の計画案ができた段階）

- ・ 場所（どの海岸の具体的な場所、範囲）
- ・ 行為内容（利用の具体的な内容）
- ・ 誰が行うのか（実施者、参加者や人数の想定）
- ・ いつ頃行うのか（具体の日程）

※具体の申請書の下書きレベルの内容で相談します。
※計画内容に課題等がある場合、複数回協議することになります。

3. 許可申請

事前協議の内容を踏まえて、管轄の土木事務所等に正式の許可申請書及び添付図書を提出

1. 許可申請書等に不備がある場合は、補正作業が生じることがあります。
2. 申請書を受理してから処分（許可、不許可）がされるまで、概ね1ヶ月ほどかかります。（補正作業期間は除く）

4. 許可

1. 申請が許可されると、管轄の土木事務所等から許可書が発行されます。許可書には、許可に当たって付された条件が記載されているので、遵守してください。

海岸利用に関わる手続きの一般的流れ

参考事例から学ぶ海岸利用

『海岸利用の活性化に向けたナレッジ集』では、ヒントとして示した各支援段階における参考となる15事例を紹介しています。海岸利用者の支援に際し、全国の海岸における先進的な取組や工夫を参考にしてください。

都道府県	海岸名	タイトル	掲載ページ
鳥取	浦富海岸	魅力発信の取組	10
宮崎	お倉ヶ浜 他	海岸の利活用を語り合う会	11
石川	増穂浦海岸	海岸背後地と一体で砂浜の魅力をPR	12
和歌山	白良浜 他	海岸の魅力を活かしたワーケーション	13
新潟	新潟海岸	夕日をキーワードに地域と連携したイベント開催で海岸の魅力を創出	14
鳥取	皆生海岸	地域と連携して海岸の通年利用を目指した取組み	15
石川	千里浜 他	海岸のブランドを活かした取組み（千里浜なぎさドライブウェイ）	16
神奈川	鵜沼海岸 他	ビーチスポーツによる海岸利用の促進	17
茨城	阿字ヶ浦海岸	サンデーマーケットの開催案内	19
-	-	河川空間のオープン化活用事例集	22
兵庫	須磨海岸	神戸市における海岸利用の工夫	33
神奈川	逗子海岸	逗子市による海岸利用の工夫	34
茨城	大洗サンビーチ	大洗サンビーチ津波避難施設での天体観測会	37
茨城	大洗サンビーチ	『Create Owarai-笑顔をつくる遊び創りワークショップ』	40
北海道	胆振海岸	海岸クリーンアップ等による地域連携の取組み	50

参考事例：海岸の魅力を活かしたワーケーション

生活様式や働き方も大きく変わる中、海岸を有する多くの自治体において、「ワーケーション」という新たな働き方が注目されるようになり、盛んに誘致が行われています。

和歌山県は、美しい海岸線をはじめとする地域の貴重な資源を活かしたワーケーションを推進し、全国からワーケーションを受け入れるための環境整備に加え、ホームページの開設、パンフレットの作成などワーケーションの情報発信にも力を入れています。

白浜町の取組（企業ニーズに合わせたマッチングによるワーケーションの推進）

和歌山県南部の白浜町では、ビーチリゾートを活かした企業誘致を古くから展開し、ワーケーションに力を入れており、企業数が増えています（右図参照）。

具体的には、企業が地域資源と関係性を築けるように、地域との交流やビジネスチャンスを見出すための視察型のワーケーションを企画する等により、企業のニーズとマッチングしたワーケーションを推進しています。

その結果、コロナ禍では海岸を訪れる観光客が激減し、大打撃を受けたが、令和4年には、コロナ禍前の過去最多であった令和元年の空港搭乗者数を上回り（下図参照）、ワーケーションで訪れたビジネス客も増加した海岸での様々な取組が行われています。

（出典）アット・コロナ禍のNew Worklife Style
～復興の心と未来への挑戦～ 2023年5月

白浜のビーチの活用事例



参考事例：海岸のブランドを活かした取組み（千里浜なぎさドライブウェイ）

■全国唯一の砂浜ドライブをブランドに継続的に国内外に広報

「千里浜なぎさドライブウェイ」は、自動車だけで走行できる海岸として全国に知られ、現在では年間約 85 万人が訪れています。宇賀市が中心となり、海岸の特色を細かく特徴的な砂質等の千里浜ドライブを磨き続け、年間を通して国内外に積極的に PR したことで、現在では民間企業や地域団体がイベント開催及びさらなる魅力発信等の地域の賑わい創出を行っています。

■ 海岸の魅力を活かした取組み
民間団体や協会等では、砂浜ドライブのみならず、ツーリングイベントやサンドアート等の様々なイベントを実施しています。



海岸付近には、レストハウスや道の駅が情報発信拠点として整備され、令和3年度にはレストハウスがリニューアル、また道の駅では、近年のキャンプやくるま旅、車中泊のニーズからRVパークが整備されています。



さらに、千里浜観光交流促進団体による「チリハルブプロジェクト」が始動し、千里浜の魅力を伝えるプロモーション動画なども制作されており、羽咋市だけでなく様々な関係者が千里浜の魅力を発信するようになっています。

■千里浜の魅力を柱に背後地の賑わい創出へ
広報「拠点整備の効果もあり、平成28年から令和元年に掛けて羽咋市の来訪者数が増加しています。また、観光客の受け入れ基盤の更なる充実化を目指し、羽咋市では、新たな観光ホテルの整備や商業施設の誘致等、千里浜から羽咋市全体への賑わい創出に繋げる取組が続けられています。」

参考事例：ビーチスポーツによる海岸利用の促進

ビーチスポーツ（ビーチバレーボール、ビーチテニス、ビーチサッカー、トライアスロン、サーフィン等）に着目した海岸利用の促進により、年間を通じた地域の活性化に繋がっています。

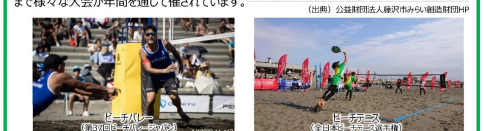
■ビーチレーボール・ビーチテニス・ビーチサッカー
 鵜沼海岸では、日本ビーチレー発祥の地であることを活かし、鵜沼市が平成7年に常設コートを整備することで、通年利用が実現しています。

ビギナーでも参加できる大会から、日本最大規模のビーチバレー大会「ビーチレーサーババ」まで様々な大会が年間恒例で開催されています。

(鵜沼市の事例)

年度	ビーチバレー参加者数(千人)	ビーチサッカー参加者数(千人)
02年	1.5	0.5
03年	2.0	0.5
04年	2.5	0.5
05年	3.0	0.5
06年	3.5	0.5
07年	4.0	0.5
08年	5.0	1.0
09年	6.0	1.5
10年	7.5	2.5

※2002年～2007年まではビーチバレー大会のみ開催
 ※2008年～2010年はビーチバレー大会とビーチサッカー大会を開催



(提供) 公益財団法人日本バレーボール協会

ビーチバレー大会 (和歌山県の実例)

日本フライングディスク協会は、 $7.5\text{m} \times 25\text{m}$ のフィールドを複数確保できるビーチに着目し、地元自治体と「スポーツを通じた地域振興に関する協定」を締結し、令和元年度は国際大会を開催し、その経済効果は約16億円と試算されています。また、令和6年には国際大会誘致に成功し、国内外をターゲットとした海岸利用活動が人々を魅了する。

全日本ビーチフライングディスク選手権大会
(左側) 一般社会人大会日本フライングディスク協会中

■ビーチを活用した地域振興の取組

NPO法人日本ビーチ文化振興協会では、ビーチ・マンスポーツの機運と認知度アップを推進するため、ビーチスポーツの国際大会の招致を目指しています。（ビーチゲームズ日本代表プロジェクト等）活動の一環として「ジャパンビーチゲームズ®」、「ジャパンビーチゲームズ®フェスティバル」を各地で開催し、ビーチスポーツの地域への普及により、年間の賑わい創出とビーチの国際化に貢献する取組を行っています。

（出所）NPO法人日本ビーチ文化振興協会HP

■キッチンカー等によるさらなる賑わいづくり

ビーチスポーツイベントに合わせてキッチンカーや飲食店を出店することにより、さらなる賑わいの空間を創出工夫も行われています。



【お問い合わせ】

国土交通省 水管理・国土保全局 海岸室

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3 (代表電話) 03-5253-8111

令和6年10月版

